

地震について

震度と揺れ等の状況

震度0

人は揺れを感じない。



震度1

屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



震度2

屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。



震度3

屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。



震度4

- ほとんどの人が驚く。
- 電燈などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。



震度5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまると感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性が低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が高い



耐震性が低い

震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い



耐震性が低い

震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



耐震性が高い

耐震性が低い

地震時の行動と備え

まずは地震への「心の備え」をしましょう

地震から身を守る最大のポイントは、いつ地震が発生してもあわてないように日頃から「心の備え」をしておくことです。ここに示す10のポイントを参考に、どのような行動をとるべきか、覚えておきましょう。

地震時の行動(地震発生)

①ブラッときたら身の安全

地震の時は、まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子を見る。



地震直後の行動(1~3分)

②落ちついて火の元確認初期消火

火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてず火の始末をする。出火した時は、落ちついて消火する。



③あわてた行動けがのもと

屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。



④窓や戸を開け出口を確保

余震などに備え、避難できるように出口を確保する。



⑤落下物あわてて外に飛び出さない

瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので注意する。



⑥門や塀には近寄らない

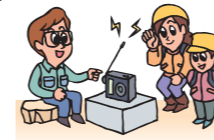
屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動(3分~)

⑦正しい情報確かな行動

テレビやラジオ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



⑧確かめ合おう我が家の安全隣の安否

我が家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



⑨協力し合って救出・救護

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



⑩避難の前に安全確認電気・ガス

避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



耐震対策

